農学部　畑っこ

農学部　畑っこ
（執筆者　梅本　真未）

1.　団体説明

畑っこは、キャンパス内にある畑で活動をしている。「農を楽しむ」をコンセプトに、在来種の保存も目指しながら、地域の方々とたくさんの野菜を育てている。おいしい旬の野菜を楽しみながら育てて、学び、みんなで味わっている。

2.　2020 年度の活動

普段の活動としては、野菜を植える場所である畝づくり、野菜の種まき、苗植え、収穫などを主に行っている。収穫した野菜を使って料理したり、その場で食べたりすることもある。また、野菜に合った調理法を学びながら料理し、地域の人に振る舞うイベントを開催している。

表 1：2020 年度の活動

3～10 月	感染症予防のため活動休止
11 月	活動再開：もち米づくり、苗植え等
12 月	稲刈り・脱穀、収穫等

（出所）執筆者作成

今年度は、感染症拡大の影響を受けて 3 月から 10 月までの期間は活動休止となった。そのため、毎年実施しているかんぴょうの栽培や 8 月に行われている地域のイベントへの参加はできなかった。活動再開後は、畝づくりや苗植え、収穫など畑での作業を行った。前年度までは、収穫した野菜をみんなで調理したり食事会を開いたりして味わっていたが、感染拡大防止のため食事会は実施せず、収穫した野菜は各自で持ち帰って調理をした。

最も印象に残った活動は、もち米の栽培である。農家の場合にはコンバインという専用の機械を使って刈り取りと脱穀を同時に行われるそうだが、本活動では、カマと手動の脱穀機を使用して、手作業で刈り取りと脱穀を行った。脱穀は、足でペダルを踏みながら手を動かすことが難しかったが効率のよい方法を教わることで徐々にコツをつかみ、楽しく学ぶことができた。

今年度からの新しい取り組みとして、①新しい SNS アカウントの開設、②メンバーとの活動内容の共有を行った。SNS での情報発信は以前より行っていたが、利用者が少ないため見てもらえる機会が少なく改善が必要とされていた。新たなアカウントの開設により、今までよりも多くの人に活動を知ってもらうことができると期待している。また、活動中の写真や感想をメンバー全員で共有することで、次回の参加がより楽しみになった。

3.　活動を通して学んでいること

活動を通して、野菜を育てることや育てた野菜を味わうことの楽しさを学んでいる。土おこしから収穫までを経験したことで、年々変化する気候に合わせて野菜をおいしく育てる工夫が必要であったり、気候に負けず根気よく続ける体力や精神力が必要であるなど想像していたよりも大変なことに気づいた。その一方で、自分たちが栽培に関わった野菜を収穫したときには喜びを感じ、調理して味わうことの楽しさを知ることができた。

また、収穫後には種を保存し、畑の様子や時期を考えて種をまくなど次の準備をする。活動を通して、繰り返しの中で受け継いでいくことの大切さを学んでいる。在来種の「津田かぶ」やトマトの「桃太郎」、キュウリの「宍粟三尺」などはその例である。普段はなかなか見ることのできない色や形の野菜を見て食べることは新鮮で興味深い。

さらに、本活動では無農薬で野菜を育てることを大切にしている。在来種を守ることや農薬と健康の関係について考える貴重な機会となっている。

4.　今後の展望

現在は、感染予防の観点から収穫した野菜をその場で調理して味わうことは困難である。そのため、持ち帰った野菜を調理し、SNS を利用して発信していきたいと考えている。また、今年度は実施されなかったイベントにもぜひ参加したい。

本団体は、地域の方々の協力によって畑が適切に管理され、学生は栽培方法や調理法を学ぶことができている。感謝の気持ちを持ち、積極的な姿勢で取り組んでいきたい。

図 1：収穫した野菜
（出所）学生団体畑っこ

図 2：もち米の稲
（出所）学生団体畑っこ